

白馬村の未来を考えるフォーラム 開催報告

日 時：令和7年9月28日(日) 14:00～16:00

場 所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室

参加者：約50名

内 容：(1) 講演「これからの地域社会～社会的共通資本の視点から～」

講師：宇沢国際学館 代表取締役 占部まり氏

(2) 鼎談「白馬村の豊かな未来と村民の暮らし」

登壇者：宇沢国際学館 占部まり氏、長野県副知事 新田恭士氏、丸山村長

白馬村の未来を考えるフォーラム

わたしたちの白馬村と
豊かな暮らしのあり方

寒村であった白馬村は、北アルプスの圧巻的な山岳景観や豊かな自然環境を活かし、世界的な観光地として発展しつつあります。民宿発祥の地として国内外から多くのお客様を受け入れてきた中で、白馬の魅力に惹かれて移り住んできた人も多く、地元民も含めた多様な人々によるコミュニティも地域を特徴づける価値を生み出しています。

その一方で、地域の発展と引き換えに失われつつある「白馬村らしさ」もあるのではないのでしょうか。

私たち白馬村民がこの地で幸せに暮らし続けるために、豊かな白馬村を次世代に受け継いでいくために、何を守り、何を変え、どのように行進していけばいいのでしょうか。地域の担い手として、一緒に学び、考え、実践してみませんか？

9月28日(日) 14:00～16:00

白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室

宇沢国際学館 占部まり氏
長野県副知事 新田恭士氏
白馬村長 丸山俊郎

参加無料
要事前申込

詳細は裏面をご覧ください。

■お申し込み・お問い合わせ
白馬村役場 総務課
電話：0261-72-7002
電子メール：kikaku@vil.hakuba.lg.jp

参加申込フォーム

プログラム

1. 講演：これからの地域社会～社会的共通資本*の視点から～
講師：占部まり氏(宇沢国際学館 代表取締役)

*「社会的共通資本」とは…
数値経済学者の宇沢弘文氏が提唱した考え方。豊かな社会(人々が豊かな生活を営む社会)に欠かせない要素として、①自然資本(大気、水、森林、土壌など)、②社会的インフラ(道路、交通機関、電気・水道・ガスなど)、③制度資本(教育、医療、金融、司法、行政など)を挙げ、それらを共通財産として持続的・安定的に運用する仕組みの必要性を訴えた。「社会的共通資本」は、障もが必要とする反面、利益を生み出しにくく、「お金に換算されないもの(できないもの)」であり、市場原理に任せて利益追求のために食われたり、官僚的に支配されたりするのではなく、社会の共通財産として社会全体で守り維持していくことが重要と考えられている。
長野県の総合5年計画『しあわせ信州創造プラン3.0～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～』においても、「社会的共通資本」の考え方が「共通視点」として取り入れられている。

2. 鼎談(クロストーク)：白馬村の豊かな未来と村民の暮らし

・宇沢国際学館 代表取締役 占部まり氏
・長野県副知事 新田恭士氏
・白馬村長 丸山俊郎

講師・登壇者

内科医 / 宇沢国際学館代表取締役
「社会的共通資本」を提唱した宇沢弘文の奥女。東京慈恵会医科大学卒業。地域医療に貢献するから宇沢弘文の理想をより多くの人に伝えたいと活動している。京都大学「人と社会の未来研究院」に設立された「社会的共通資本と未来学研究所」で健康問題や教育・医療など社会的共通資本を基軸に多角的な学際研究の企画運営に協力している。日本メメント・モリ協会代表理事。著書に『生きる未来学』。日本医師会国際保健検討委員など。

宇沢国際学館 占部まり氏

1993年建設省入省、2020年筑波大学大学院情報システム工学研究科構造エネルギー工学専攻(博士(工学))修了、2022年道路局国道・技術課技術企画室長、2023年長野県建設部長就任、2025年長野県副知事に就任。

長野県副知事 新田恭士氏

白馬村長 丸山俊郎

■お申し込み・お問い合わせ
白馬村役場 総務課 電話：0261-72-7002
電子メール：kikaku@vil.hakuba.lg.jp

参加申込フォーム



白馬村の未来を考えるフォーラム

「わたしたちの白馬村と豊かな暮らしのあり方」を開催しました

白馬村第6次総合計画の策定に向けて、内科医で宇沢国際学館の代表を務める占部まり氏を講師に迎え、長野県の総合なか年プランにも取り入れられている「社会的共通資本」の考え方や、これからの地域社会に重要なことについて「講演」いただきました。

その後、新田副知事と丸山村長も交えて、白馬村の現状や課題、将来に向けての取り組みについて様々な視点から対話していただきました。



■「社会的共通資本」とは…

数理経済学者の宇沢弘文氏が提唱した考え方。豊かな社会（人々が豊かな生活を営む社会）に欠かせない要素として、①自然資本（大気、水、森林、土壌など）、②社会的インフラ（道路、交通機関、電気、水道など）、③制度資本（教育、医療、金融、司法、行政など）を挙げ、それらを共通財産として持続的・安定的に運用する仕組みの必要性が訴えられています。

「社会的共通資本」は、誰もが必要とする反面、利益を生み出しにくく「お金に換算されない（できないもの）」であり、市場原理に任せて利益追求のために貪られたり、官僚的に支配されたりするのはなく、社会的共通財産として社会全体で守り維持していくことが重要と考えられています。

■第1部 講演

「これからの地域社会／社会的共通資本の視点から」

講師…占部まり氏（内科医／宇沢国際学館代表取締役／宇沢弘文氏の長女）

「よく生きる」ためには、自然環境や社会的装置（制度）が必要。それらの社会的共通資本は、資本主義と社会主義の良いところを生かしながら、みんなで守っていくことが重要。

本来、経済は人間の心があって初めて動き出すものであるが、現代は人間の心が経済に翻弄されている。

「自然」や「子ども」など価格がつかないものは経済学では扱いにくく軽視されやすい。大切なものを金に換えないこと、想像がつかない人々も守られる制度が大切。

医療や福祉サービスは、地域にあることで住民に安心感を提供している。（経済的には測れない価値がある）

現在の社会保障制度は約50年前につくられたもので、当時は平均寿命も短かった。現代は多くの人が80歳くらいまでは心身ともに健康。高齢者の基準を大幅に引き上げると持続可能な社会保障が実現できる。

患者の死亡率とお見舞いに来る人数、人とのつながりと健康寿命には相関があるとされている。高度医療よりも人とのつながり（社会的処方）が大切。人とのつながりだけでなく健康や文化など様々な価値を持っている。

が大切。人とのつながりだけでなく自然とのつながりも健康と関連する重要な要素となる可能性がある。認知症は忘れること自体より周囲の接し方等による周辺症状が問題になることが多い。活躍できる場や役割がある地域社会で受け止められる安心感があると良い。

手仕事をしながら話をすると創造性が高まることも科学的にも示されている。白馬村にもそういった機会はたくさんあるのではないかと。

量を競うと争いが生まれるが、質を競うと幸福が生まれる。質とは美しさであり、真・善・美を大切にしたい。

農業に従事している男性は、健康寿命が伸びることも観察されていて、医療費も少ない。農の営みは食糧生産だけでなく健康や文化など様々な価値を持っている。

インフラや医療・教育などは一か所にまとめた方がコストが抑えられるが、地方には経済的では測れない価値があり、疎空間の美しさを次世代に残したい。

社会的共通資本のような大切なものは、戦争や災害で失われて初めてその価値に気付くことが多い。予めそれを考えることで、失われるリスクを最小限に抑えられると良い。

※フォーラムの様子はケーブルテレビで放映しています。

■第2部 鼎談（フロストーク）

「白馬村の豊かな未来と村民の暮らし」

【登壇者】

・占部まり氏

・新田恭士 長野県副知事

・丸山村長

・長野県では、「確かな暮らしを創る」という基本目標を掲げ、社会的共通資本を多様な関係者と共に維持・発展させていくことを目指している。

・長野県として人口減少を受け入れて対応していく方針を示していることは素晴らしい。江戸時代の日本の人口は3千万人くらいで、国内で食料を生産していた。技術を活用すれば人口が減ってもより楽しい社会を作ることのできるのではないかと。

・長野県でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・白馬村にも村民憲章や景観条約など理念やルールを示したものがいくつかあるが、それを理解してもらえない部分もあるため、今後は周知にさらに力を入れていきたい。

・白馬村でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・地価の上昇については、土地の付加価値が高く収益率が高い

・地価の上昇については、土地の付加価値が高く収益率が高い

場所という良い側面もあるが、売買を目的とした投機的な理由であれば対策を講じる必要がある。地域が賑わうと好循環の中で地価やサービスの価格が高くなっていくが、家賃なども高くなり弱者が取り残されてしまう状況も生じ得る。

・真鶴町では、景観を守り育むために、まちづくり条例「美の基準」を制定している。白馬に土地を購入したり開発する人たちに白馬の自然や歴史を学んでもらい、自然や景観があつてこそ事業が成り立つことを理解してもらう仕組みができると良い。

・軽井沢町でも自然と景観を守るためのガイドライン「自然保護対策要綱」があり、5つの地域区分ごとにルールを設けている。

・白馬村にも村民憲章や景観条約など理念やルールを示したものがいくつかあるが、それを理解してもらえない部分もあるため、今後は周知にさらに力を入れていきたい。

・白馬村でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・白馬村でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・白馬村でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・白馬村でも農の営みをされている方も多く、お裾分けなども多く行われている。一方で、区の入率低下や外国人との言語の壁や文化の違いなど課題も多い。

・若い世代や女性から選んでもらう地域になるためには、旧来の固定観念などを見直し、世代間の意識の違いや文化の違いも相互に理解する必要がある。

・地域コミュニティは言語化されていないルールも多いが、相互理解とゆるいつながり、言語を介さない活動などが重要と思われる。

・これからは、足の健康、口の健康、人とのつながりが大切。多世代交流しながら楽しくフレイルチェックができるとうい。

・白馬の自然や景観は、白馬の人たちのものでありながら、他の人や将来世代に与える影響も大きい。都市部の人も交えて楽しく活動しながら、自然や景観を守る意識も育んでいけるプログラムが作れるとういのではないかと。

・長野県では様々な産品が生産されているが、人とのつながりや信頼関係、感謝が巡ると地域内の経済循環も向上すると思われる。経済的にも社会的にも地域の絆を深めて、長野県を代表する地域になってほしい。

・長野県では様々な産品が生産されているが、人とのつながりや信頼関係、感謝が巡ると地域内の経済循環も向上すると思われる。経済的にも社会的にも地域の絆を深めて、長野県を代表する地域になってほしい。

・長野県では様々な産品が生産されているが、人とのつながりや信頼関係、感謝が巡ると地域内の経済循環も向上すると思われる。経済的にも社会的にも地域の絆を深めて、長野県を代表する地域になってほしい。

お問合せ 白馬村役場 総務課 電話：0261-72-7002

11月22日（土曜日）は、白馬・小谷地震防災の日

白馬・小谷地震防災の日は、令和6年に開催された神城断層地震10年シンポジウムの際に制定されました。当日は、白馬村多目的研修集会施設で、村内防災無線を活用した全村一斉避難訓練、避難所開設訓練、初期消火訓練、煙体験、防災備品の展示等を予定しています。この訓練に参加すると、防火管理者に義務付けられている消防訓練に数えられますので大勢のご参加をお願いします。